

小さな命 守りたい AMDA 子ども病院

【アトワル石川隆宣】阪神大地震でネパールを含む各国から支援を受けたお返しにと、被災者の善意が結集して生まれたパール南西部、アトワルのAMDA(アムダ)ネパール子ども病院。新生児集中治療室(NICU)のベッドに呼吸のためのチューブを口にあてられた

生後間もない未熟児がいた。写真・西村剛撮影。まだ名前すらない赤ちゃん。目がうっすらと開いていることに気づかなければ生きていくかもよく分らない。数時間後、この子の遺体を納めた小箱の前に、父親がいた。20歳前後でまだあとけなさを残す顔立ちの父親が無表

情に立ちつくしていた。

輝き奪わないで
ネパール・
インド報告



災害や戦争、貧困などで苦しむ子どもたちを支援する「世界子ども救済金」を募集しています。郵便振替か現金書留で送金いただくか、ご持参ください。〒530-8251 大阪府北区梅田3の4の5 毎日新聞希望のネットワーク「世界子ども救済金」係 (郵便振替00930-8-185415)。

